

第 29 回 ISOE 運営委員会議事概要

1. 日時：令和元年10月21日（月）9:00～16:30
2. 参加者：22名（ISOE技術センター事務局；アジア（ATC）・欧州（ETC）及び国際原子力機関（IAEATC）、オランダ、フィンランド、日本、韓国、中国、スイス、スウェーデン（電力会社、規制機関）、およびNEA事務局）
（うち、NEA事務局を含む2名はウェブ会議での参加）
3. 内容
 - ・ 前回 MB（2018年パリ開催）の議事録が承認された。
 - ・ ETCより、2018年のISOE活動の概要（各TCにより実施されているシンポジウムやベンチマークを含む）が紹介された。データ入力やカントリーレポートの収集状態も紹介されたが、ATCに関しては韓国分のデータが2016年以降入力されていないことが指摘された。
 - ・ WGDECOM（廃止措置ワーキンググループ）の活動概要が紹介された。これまで同グループが行ってきたサイト視察、データ収集、意見交換の様子が紹介され、また今後の活動計画も示された。
→WGDECOMについては、その重要性と必要性を鑑み、今後も継続することとなった。
 - ・ WGDA（データ分析ワーキンググループ）については、WGDA議長が不在のため、活動紹介はなされなかった。
→MB議長が中心となり、WGDAの今後のあり方についての検討が行われた。また、メール媒体でのMBメンバーからの意見が、補足資料として紹介された。検討の結果、一部でWGDAの存続を求める声があるものの、大多数は「廃止」に賛成であったため、WGDAは継続されないことが決定された。主な理由は、NEA人件費の関連で各活動における「TCの負担軽減」「経費削減」が求められているためである。
 - ・ Work management Book（『原子力発電所の職業放射線防護を最適化するための作業管理』）の改訂作業についての議論が行われた。マンパワーの問題もあるため、具体的な方策（部分改訂をするのか、章を追加するのか等）については、今後も検討を続けていくこととした。
 - ・ 各TCが提出したPI（Performance Indicator）が紹介され、各TCにおける活動概要が紹介された。

- 各 TC が提出した予算概況が紹介された。
- **ISOE Update Group** における検討結果と **NEA** による提案項目が紹介された。**NEA** 人件費については各 TC の予算の 10%を捻出することが求められ、**ATC** も現有予算から 10%を提供することに合意した。**NATC** をイリノイ大学から **EPRI** に移管するという提案については、今後も **NEA** 事務局が中心となって検討を続けることとした。

以上